

# 教育委員会定例会日程

平成29年5月26日

1 開 会

2 前回会議録の承認

3 会議録署名委員の決定

4 報告事項

(1) 青少年の体験交流事業等について

(資料1 青少年課)

(2) 学校施設整備について

(資料2 学校安全課)

5 議事

日程第1

議案第17号

小田原市文化財保護委員会委員の委嘱について

(文化財課)

日程第2

報告第3号

事務の臨時代理の報告(平成29年6月補正予算)について

(文化部)

6 その他

7 閉 会

## 青少年の体験交流事業等について

### 1 指導者養成研修事業 「おだわら自然楽校（OOTS）」

青少年健全育成の担い手として継続的に活躍できる青少年指導者の発掘・育成・資質向上を目的とした研修事業です。

#### (1) 期日・場所・内容

	期 日	場 所	研修プログラム
基礎編	5月27日（土）	酒匂川(小田原アリーナ周辺)	川遊び入門編
	6月11日（日）	PAA21 ロープスコース (南足柄市)	ゲーム de グループビルド
	7月2日（日）	けやき大会議室	子どもの「なぜ？」を学ぼう
	平成30年2月	市役所大会議室	子どものやる気を引き出そう
特別編	9月上旬	酒匂川周辺	そうだ！キャンプに行こう！
	10月29日（日）	城址公園周辺	まちなか自然観察
	11月11日（土）	足柄ふれあいの村	ネイチャーゲーム遊び
	12月9日（土）	丹沢周辺	山の地図を読み取ろう

(2) 対象・人数 青少年育成、体験活動に携わるかた、また関心のある高校生以上のかた  
各回30名（先着順） 研修ごとに募集

(3) 受講料 各プログラム 1,000円～2,000円/人・回

### 2 青少年交流事業 「チャレンジ アンド トライ」

各地区子ども会の代表児童（各地区男女1名ずつ、計44人）が集い、地域の子ども会活動などでリーダーとして活躍できるよう、各種プログラムを体験します。

(1) 期日 7月8日（土）

(2) 場所 小田原アリーナ・サブアリーナ

(3) 内容 体験・交流プログラムほか

(4) 参加募集 小学6年生・44人（男22人/女22人） ※各地区の子ども会から選出

(5) 指導者 小田原市子ども会連絡協議会

### 3 地域少年リーダー養成講座 「きらめきロビンフード」

子どもたちが、新しい仲間と一緒に自然体験やキャンプスキルを習得する中で、地域で活躍できる“少年リーダー”としての自覚と行動力を身につけていくことをねらいとし

ています。講座は、2泊3日のキャンプ（宿泊研修）を中心とした全4回の年間講座です。

(1) 期日・場所・内容

	期 日	場 所	内 容
第1回	7月9日（日）	市役所	オリエンテーションほか
第2回	8月19日（土） ～21日（月）※2泊3日	いこいの森	キャンプ（野外炊事含む） 自然体験ほか
第3回	10月22日（日）	市役所	記念誌づくりほか
第4回	3月4日（日）	未定	修了証書授与ほか

(2) 参加募集 小学5・6年生 定員48人

(3) 指導者 小田原市青少年育成推進員協議会、シニア・リーダーズ・クラブ  
ジュニア・リーダーズ・クラブ

(4) 参加費 4,000円

#### 4 地域・世代を超えた体験学習 「あれこれ体験 in 片浦」

参加者である小学5・6年生が、学校や学年を超えたコミュニケーションを図り、また、世代の異なる大人（指導者）たちと交流をしながら、創造性や自立心、豊かな人間性を育むことのできるよう、2泊3日の宿泊体験学習を実施します。

なお、この事業は、指導者養成研修事業「おだわら自然楽校」受講生の実践の場としての性格を併せもっています。

(1) 期日 ①第1回目 7月29日（土）～7月31日（月） ※2泊3日

②第2回目 8月4日（金）～6日（日） ※2泊3日

<同じ内容を異なる日程で2回実施します。>

(2) 場所 旧片浦中学校及び片浦地域

(3) 内容 仲間作り／野外炊事／キャンプファイヤー／体験型ウォークラリー  
食事（テーブルマナー、配膳実習）／夜の集い／ふりかえり（発表）  
施設清掃 ほか

(4) 参加募集 小学5・6年生 定員：第1回目48人／第2回目48人 計96人

(5) 指導者 地域・世代を超えた体験学習実行委員会（おだわら自然楽校受講者）

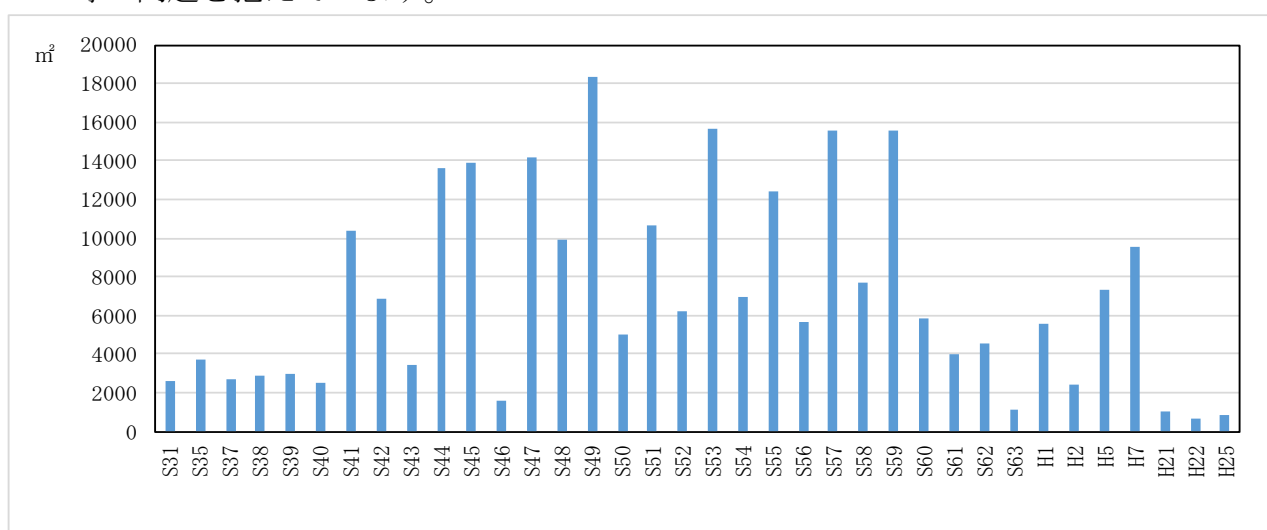
(6) 参加費 8,000円（予定）

## 学校施設整備について

### 1 現状と課題

#### (1) 現状・課題

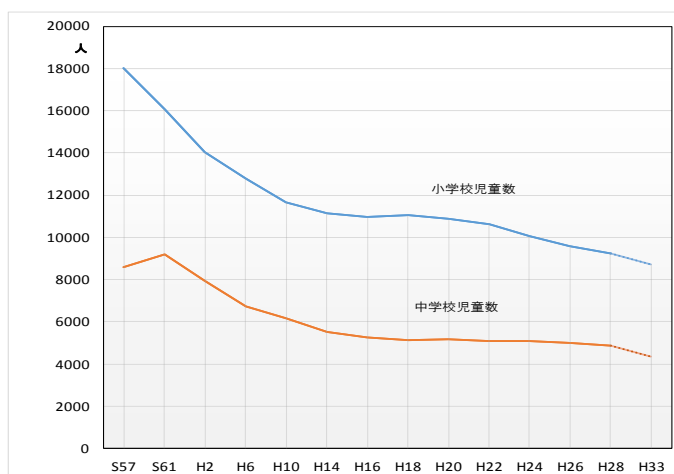
本市の市立小・中学校及び幼稚園は、築40年～50年以上経過した施設が約5割を占めています。建築のピークは昭和41年～59年（19年間）で全体の約75%であり、平成8年以降の20年間はほとんど建築を行っていないため、老朽化による不具合等の問題を抱えています。



(図1) 建築年度別床面積

児童生徒数は、昭和57年をピーク（26,619人）に減少を始め、平成28年にはピーク時から47%減となっており（14,045人）、この傾向は今後も続くと予想されます。

児童生徒数が大幅に減少すると予測される学校もあり、こうした少子化などの社会状況の変化への対応が必要になります。



(図2) 小中学校児童生徒数の推移

また、教育内容・教育方法の多様化、防犯・防災機能の強化、バリアフリー、環境への配慮、地域活動や生涯学習の場としての役割など、学校施設へのニーズが時代とともに変わり、新たな機能も必要になっています。

整備に関しては、校舎及び屋内運動場の耐震補強工事は平成21年度までにすべて終了し、現在は防水、外壁、受変電設備、受水槽、トイレの改修工事等を実施しており、今後は長寿命化対策や機能向上等のための改修を検討する必要があります。

学校は他に代替えのきかない学習の場であることはもちろん、児童生徒の毎日の生活の場であり、人間形成の場であるので、安心、安全、快適に過ごせる環境をしっかりと確保する必要があります。

今後も厳しい財政状況が見込まれますが、効率的、効果的に整備や維持保全を実施し、財政負担の軽減や平準化を図ることが求められます。

## (2) 施設の現状評価

国では、全国の地方公共団体の建物が老朽化により一斉に更新の時期を迎える中、限られた予算で多くの施設を整備するため、従来のような改築（建て替え）ではなく、コストを抑えながら改築と同等の環境を確保できる「長寿命化改修」を推進しており、学校施設においても、国と地方公共団体が一体となってこれを推進するよう、文部科学省が「インフラ長寿命化計画」を平成27年3月に策定しています。

こうした流れの中、本市教育委員会では学校施設の整備を検討するに当たり、各施設が長寿命化改修に適するか判断するために、保有するデータに基づき、建築物の基礎や骨格となる「**躯体**」と、設備や内部仕上げ等の「**躯体以外の部位**」に分けて評価を実施しました。

評価の方法は、文部科学省の「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」に準じました。

### ア 躯体の評価

躯体は、耐震診断時の構造計算用に調査したコンクリートの材料試験データである「コンクリート圧縮強度」及び「コンクリート中性化深さ」を用いて、「長寿命化改修に適するか」を評価しました。

#### <長寿命化改修の整備に適さないと判断する基準>

◇**圧縮強度** : 13.5 N/mm<sup>2</sup>以下の場合（鉄筋コンクリート造）

◇**中性化深さ** : 調査時点で30mm（許容深さ）に達している場合、あるいは理論式(\*)よりも中性化の進行が速い場合

(\*)理論式は、建築学会や土木学会で多く採用されている「浜田式」とする。

<浜田式の計算式>

$$\text{中性化深さ (C)} = 10 \times \sqrt{(t \div 7.2)} = 3.73\sqrt{t}$$

(中性化深さ (C) が30mmに達する築後年数 (t) を65年とした場合、その時点での理論上の深さのこと。中性化係数は7.2とする。)

## ①評価結果

小学校・中学校・幼稚園の全42校（園）の躯体について評価したところ、37校（園）の施設は基準値以内であり長寿命化改修に適する「**長寿命**」という評価となりましたが、**5校6施設**は長寿命化改修に適さない可能性があるため、整備の計画上は改築（建て替え）の方向で考えていく「**改築**」という評価となりました。

学校名	施設名	構造区分	階数	建築年度	築年数	耐震			躯体調査データ			躯体評価 (長寿命化判定)
						基準	診断	補強	調査年度	圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )	中性化深さ (mm)	
A小学校	校舎	RC	3	S48	43	旧	実施	実施	H13	20.1	25.5	改築
B小学校	校舎	RC	3	S45	46	旧	実施	実施	H25	13.1	0.0	改築
C小学校	校舎	RC	3	S62	29	新	—	—	H26	28.7	25.4	改築
	屋内運動場	S	1	S45	46	旧	実施	実施	H11	11.4	—	改築
D小学校	校舎	RC	3	S49	42	旧	実施	実施	H14	13.4	—	改築
E中学校	校舎	RC	3	S41	50	旧	実施	実施	H26	21.2	27.9	改築

RC:鉄筋コンクリート造      S:鉄骨造

(図3) 躯体評価の結果（改築となったもの）

※A小学校校舎、C小学校校舎及びE中学校校舎については、「中性化の深さ」が理論式より進行が速いので「改築」と評価しています。

## ②「改築」について

「改築」と評価された施設は、実際に工事を実施する際には詳細な調査を行い、長寿命化改修に適することが判明した場合には改築（建て替え）ではなく長寿命化改修による整備に変更します。

## イ 躯体以外の部位の評価

躯体以外は、「健全度」を算出して評価しました。「健全度」とは、建物の劣化状態を示す指標です。

### <「健全度」の算出方法>

#### ① 部位の評価点

- ・建物の部位を、「屋上・屋根」、「外壁」、「開口部」、「内部仕上」、「電気設備」、「給排水衛生設備」、「空調換気設備」、「昇降機その他」の8項目に分ける。
- ・「屋根・屋上」、「外壁」、「開口部」は目視状況により、「内部仕上」、「電気設備」、「給排水衛生設備」、「空調換気設備」、「昇降機その他」は、部位の全面的な改修年からの経過年数を基にA・B・C・Dの4段階で評価する。（「内部仕上」のみA・B・Cの3段階で評価）
- ・この4段階の評価に、「①部位の評価点」に規定された評価点を付ける。

#### ② 部位のコスト配分

- ・部位により改修費用に占める割合が異なることから、それぞれの部位に「②部位のコスト配分」のとおり配分比率を設定する。（コスト配分は実績から見た一般的な平均値で、合計は「60」となる。残りの「40」は躯体部分。）

#### ③ 健全度

- ・部位ごとの評価点を部位のコスト配分率に掛け合わせ、その数値を合計することにより当該建物全体の健全度を算出する。

#### ①部位の評価点

評価	評価点
A (概ね良好)	100
B (部分的に劣化)	75
C (広範囲に劣化)	40
D (早急に対応を要する)	10

#### ②部位のコスト配分

部位	コスト配分
屋根・屋上	7.2
外壁	6.0
開口部	8.9
内部仕上	22.4
電気設備	8.0
給排水衛生設備	6.5
空調換気設備	0.5
昇降機その他	0.5
計	60.0

#### ③健全度の計算式

総和 (部位の評価点×部位のコスト配分)

部位のコスト配分の合計 (60)

(100点満点にするために部位の合計値で割る)

#### <健全度の計算例>

部位	評価	→	評価点	×	コスト配分	=	
屋根・屋上	C	→	40	×	7.2	=	288.0
外壁	D	→	10	×	6.0	=	60.0
開口部	C	→	40	×	8.9	=	356.0
内部仕上げ	C	→	40	×	22.4	=	896.0
電気設備	C	→	40	×	8.0	=	320.0
給排水衛生設備	C	→	40	×	6.5	=	260.0
空調換気設備	A	→	100	×	0.5	=	50.0
昇降機その他	—	→	0	×	0.5	=	0.0
計					60.0		2230.0

<健全度> 2230.0 ÷ 60 = 37 (端数処理後)

**37点**

## 小学校 校舎

順位	学校名	健全度	築年		劣化状況								
			築年	経過年数	屋根・屋上	外壁	開口部	内部仕上	電気設備	給排水衛生	空調換気	昇降機その他	
1	a 小学校	37	S47	44	C	D	C	C	C	C	C	A	-
2	b 小学校	48	S48	43	D	A	B	C	C	C	C	A	-
3	c 小学校	57	S49	42	A	C	B	C	B	C	C	A	-
4	d 小学校	67	H1	27	B	C	B	B	B	C	C	A	-

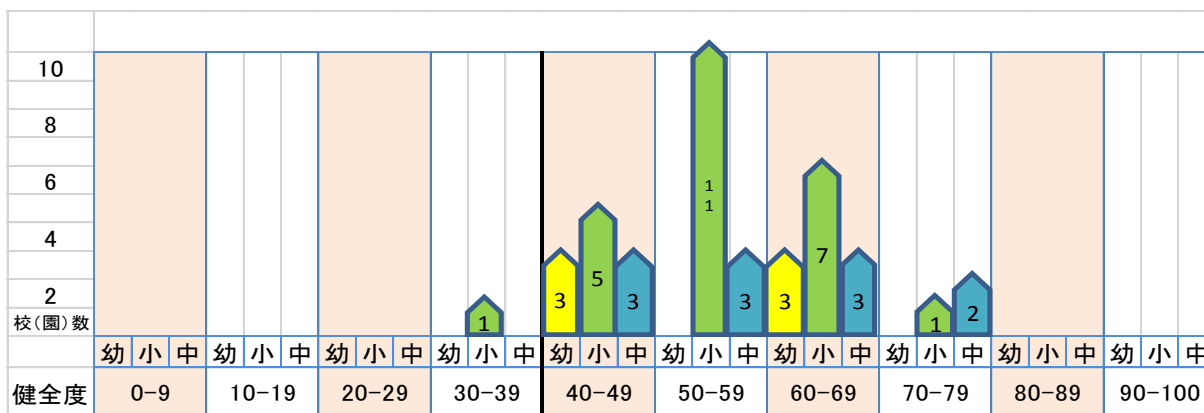
(図4) 躯体以外の部位の評価の例

<基本的な判断の例>

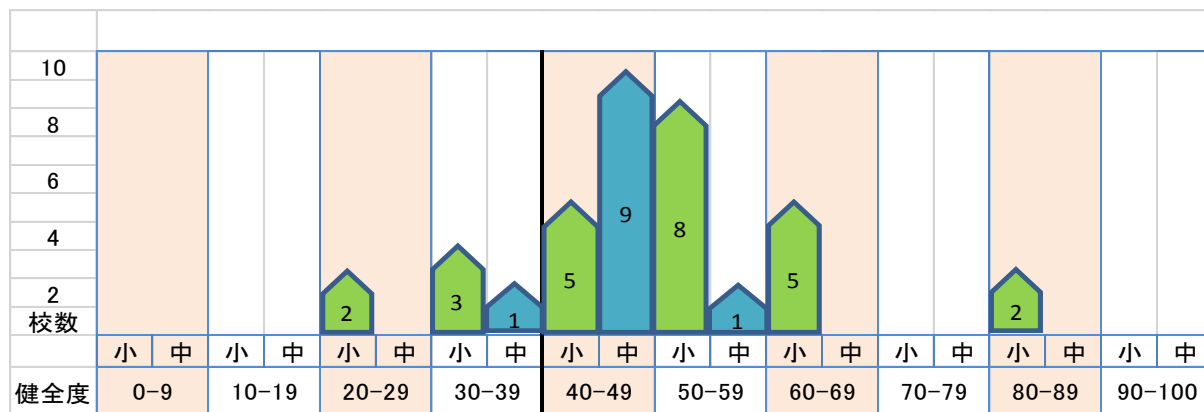
a 小学校は、「健全度」から見た改修の優先順位が高いと考えられる。

### ①評価結果

小学校・中学校・幼稚園の全42校(園)の躯体以外の部位について100点満点で評価したところ、「優先的に長寿命化改修等の対策を講ずることが望ましい」とされている健全度40点未満に該当した施設は校舎が1、屋内運動場が6となりました。



(図5-1) 校舎の健全度の結果



(図5-2) 屋内運動場の健全度の結果(幼稚園はなし)



## ②「健全度」について

数値が小さいほど劣化が進んでいることを示すもので、整備の優先順位を考える際の参考にします。

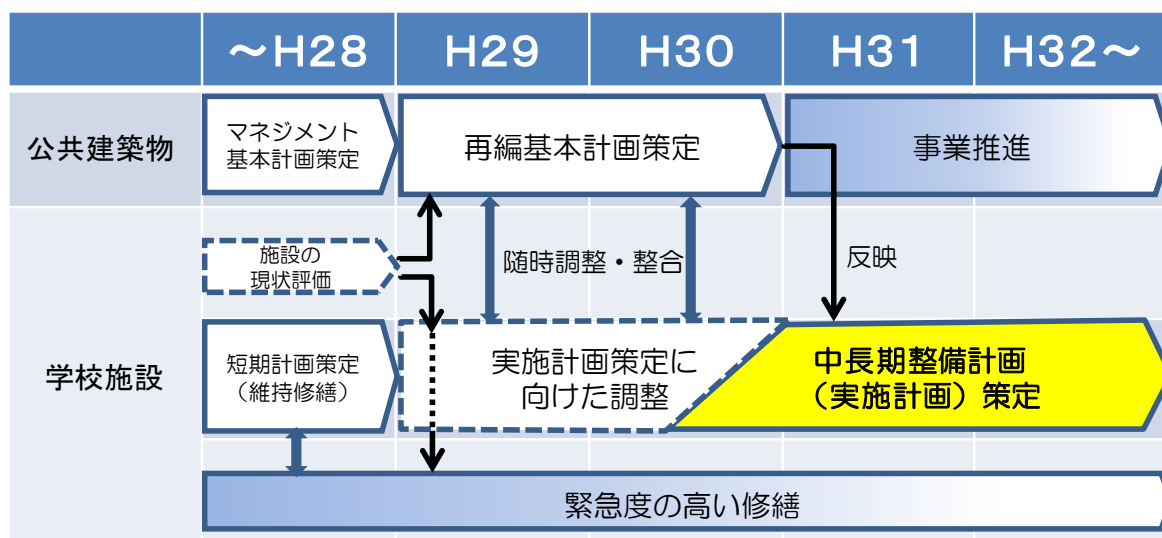
## 2 今後の予定

本市教育委員会では、平成26年2月に「小田原市学校施設整備基本方針」を策定し、緊急度の高い修繕は「短期計画」として優先的に整備を行うとともに、長寿命化対策・機能向上のための改修や、改修による延命が困難な場合の改築（建て替え）は、「中長期の整備計画」を平成28年度末に策定した上で実施していく考えで進めてきました。

その後、本市では、複合化や統廃合を含めた公共施設全体の適正配置に取り組むため、平成29・30年度に「公共施設再編基本計画」を策定することになりました。

そのため、「中長期の整備計画」については、この「公共施設再編基本計画」との整合を図りながら、具体的な計画の検討・策定作業を行うこととしました。

なお、学校施設の評価結果については、これらの計画の策定作業の基礎データとして活用するとともに、今後実施する緊急度の高い修繕についても検討材料としていくこととします。



(図6) ロードマップ

議案第 17 号

小田原市文化財保護委員会委員の委嘱について

小田原市文化財保護委員会委員の委嘱について、議決を求める。

平成 29 年 5 月 26 日提出

小田原市教育委員会  
教育長 栢沼 行雄

## 小田原市文化財保護委員会委員候補者名簿（案）

任 期 平成29年6月1日～平成31年5月31日

氏 名	職 業 等	専 門	新・再
あいざわ まさひこ 相澤 正彦	成城大学文芸学部芸術学科教授	美術(絵画)	再任
いわはし きよみ 岩橋 清美	国文学研究資料館特任准教授	歴史(近世史)	再任
おおやつ さなえ 大谷津 早苗	昭和女子大学人間文化学部 歴史文化学科教授	民俗	新任
おかもと たかゆき 岡本 孝之	神奈川県考古学会会長	歴史(考古)	再任
かつやま てるお 勝山 輝男	神奈川県立生命の星・地球博物館 学芸員	自然科学	再任
きら よしえ 吉良 芳恵	日本女子大学文学部史学科教授	歴史(近代史)	再任
とりい かずお 鳥居 和郎	元神奈川県立歴史博物館学芸員	歴史(中世史)	再任
ひらた だいじ 平田 大二	神奈川県立生命の星・地球博物館 館長	自然科学	再任
まつかげ あきのり 松蔭 宣徳	城郭研究家	城郭	再任
よしだ こういち 吉田 鋼市	横浜国立大学名誉教授	建築	再任

## 小田原市文化財保護委員会委員新任候補者名簿

### 【新任候補者】

選 出 区 分	民俗
氏 名	大谷津 早苗
住 所	東京都世田谷区弦巻
生 年	昭和35年
備 考	神奈川県文化財保護審議会委員 横浜市文化財保護審議会委員 厚木市保護審議会委員 (仮称)あつぎ郷土資料館検討委員会委員 鎌倉市文化財専門委員会委員
委 嘱 期 間	平成31年5月31日まで

### 【前 任 者】

選 出 区 分	民俗
氏 名	中村 ひろ子

## 平成 29 年度 6 月 補正 予算 要求 概要

(歳入)

(単位：千円)

科目	要求額	主な内容
(項) 国庫補助金 (目) 教育費補助金	31,203	社会資本整備総合交付金
(項) 諸収入 (目) 教育費雑入	15,000	コミュニティ助成事業助成金
(項) 市債 (目) 教育債	27,900	社会教育施設整備事業債
合計	74,103	

(歳出)

(単位：千円)

科目	要求額	主な内容	財源内訳			
			国県支出金	地方債	その他	一般財源
(項) 社会教育費 (目) 文化財保護費 文化財保存活用 経費	1,377	文化財保存修理等助成事業 ・稲葉一族の墓所修復事業費補 助金				1,377
(項) 社会教育費 (目) 生涯学習 センター費 地区公民館育成 事業経費	15,000	地区公民館育成支援事業 ・地区公民館建設費補助金			15,000	
(項) 社会教育費 (目) 図書館費 文学館運営経費	60,540	歴史的風致維持向上計画推進 事業 ・白秋童謡館耐震等改修事業 (平成 29～30 年度継続事業 継続費設定額 82,900)	29,125	27,900		3,515
(項) 社会教育費 (目) 郷土文化館費 郷土文化館運 営経費	5,150	歴史的風致維持向上計画推進 事業 ・松永記念館整備活用事業費 無住庵移築基本設計等委託料	2,078			3,072
合計	82,067		31,203	27,900	15,000	7,964

## 稲葉一族の墓所修復事業補助について

### 1 稲葉一族の墓所の概要

江戸時代前期に小田原城主を務めた稲葉一族の墓所である。

墓所は、紹太寺（入生田467番地）に所在し、城主やその正室等、合計8基の墓石・供養塔が並び、稲葉氏城主時代の繁栄を忍ぶ貴重な史跡である。（昭和36年3月30日市指定史跡に指定）

### 2 稲葉一族の墓所修復事業に至る経緯

平成26年7月21日

所有者による被害（倒木の直撃による墓石倒壊）の確認。

平成26年8月

所有者から、市の補助を受けても自己負担が大きいため、即時の修復は難しいとの見解が示された。以後、修復について継続的に協議。

平成28年8月

市民有志から所有者に倒木撤去の申し出があり、作業を開始。

平成29年2月

市民有志と所有者による倒木撤去作業終了。

平成29年3月

所有者から、倒木撤去により事業費が軽減され負担が小さくなったこと、墓石等の修復は、市民有志では不可能であることから業者に委託したいので、補助金を交付してもらいたいとの要望が出された。

### 3 倒木による被害内容

墓石・供養塔8基中5基、石灯籠25基中10基

### 4 修復事業補助の内容

倒木の被害を受けてから2年半以上が経過し、市民等来訪者から修復を望む声が多いことやウォーキングコースの一部となっていることもあり、早期に修復する必要がある。

このため、所有者が実施する墓石等の積み直し及び墓所内の石畳等の修復整備工事に対し補助金を交付する。



墓石倒壊前の状況



現在の状況

## 地区公民館建設費補助金（コミュニティ助成事業）

北ノ窪公民館は、昭和41年に建設されて以来、地域住民のコミュニティ活動の拠点として長年利用されているが、建築後50年を経過していることから、老朽化が著しく、利用に支障をきたしているため、現公民館の建替え工事を行う。

### 1 既存公民館の概要

- |         |                |         |         |
|---------|----------------|---------|---------|
| (1) 名称  | 北ノ窪公民館         | (4) 建築年 | 昭和41年   |
| (2) 所在地 | 小田原市北ノ窪352番地の1 | (5) 床面積 | 126.22㎡ |
| (3) 構造  | 木造平屋建          |         |         |

### 2 新築工事の概要

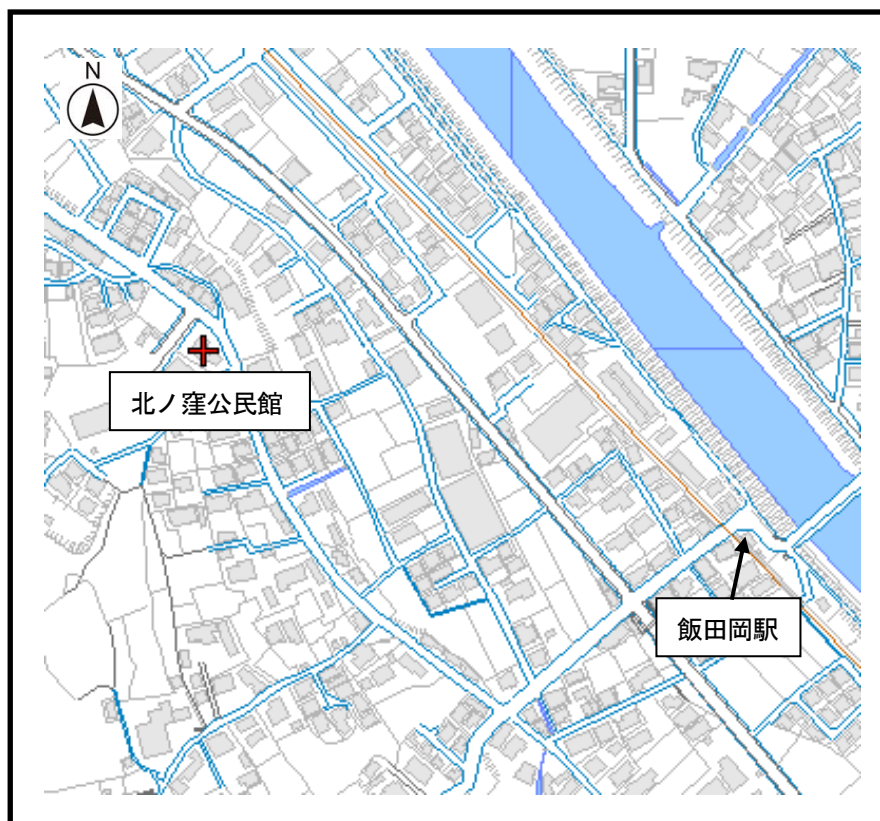
- |         |         |            |                 |
|---------|---------|------------|-----------------|
| (1) 構造  | 木造平屋建   | (3) 工事予定期間 | 平成29年8月～平成30年1月 |
| (2) 床面積 | 208.68㎡ | (4) 工事費    | 51,948,000円     |

### 3 助成額 15,000,000円

対象事業費45,036,000円（解体工事・外構工事を除く。）の5分の3以内。  
上限15,000,000円。

### 4 財源内訳

コミュニティ助成金	15,000,000円
北ノ窪自治会一般会計	36,948,000円
合 計	51,948,000円



# 白秋童謡館耐震等改修事業について

「小田原市歴史的風致維持向上計画」に基づく計画推進事業の一つである、小田原文学館整備活用事業を推進するため、国登録有形文化財及び歴史的風致形成建造物に指定されている小田原文学館及び白秋童謡館の整備事業を行う。

## 1 整備年次スケジュール

平成25年度	小田原文学館・白秋童謡館建物調査 小田原文学館・白秋童謡館測量調査
平成26年度	小田原文学館・白秋童謡館建物構造調査
平成28年度	白秋童謡館改修工事実施設計
平成29年度	白秋童謡館改修工事
～30年度	(耐震改修工事、劣化部分補修工事、屋根改修工事)
今後の予定	小田原文学館改修工事実施設計 小田原文学館改修工事

## 2 補正予算内容

(1) 事業費 82,900千円 (うち29年度分 60,540千円)

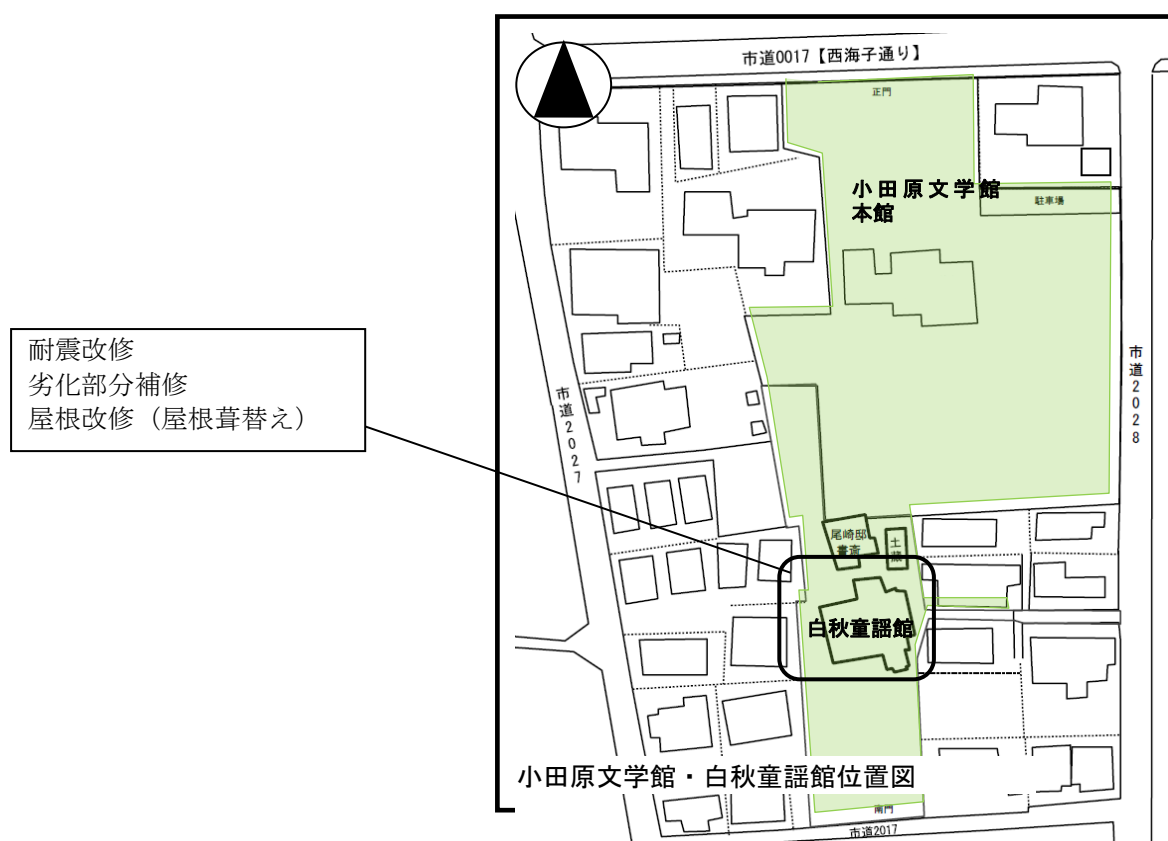
白秋童謡館改修工事  
白秋童謡館改修工事 工事監理

(財源)

社会資本整備総合交付金	29,125千円
地方債	44,600千円
一般財源	9,175千円

(2) 事業内容

平成28年度に行った実施設計を基に、白秋童謡館の耐震改修、劣化部分の補修及び屋根改修工事を実施する。





# 無住庵移築基本設計等委託料について

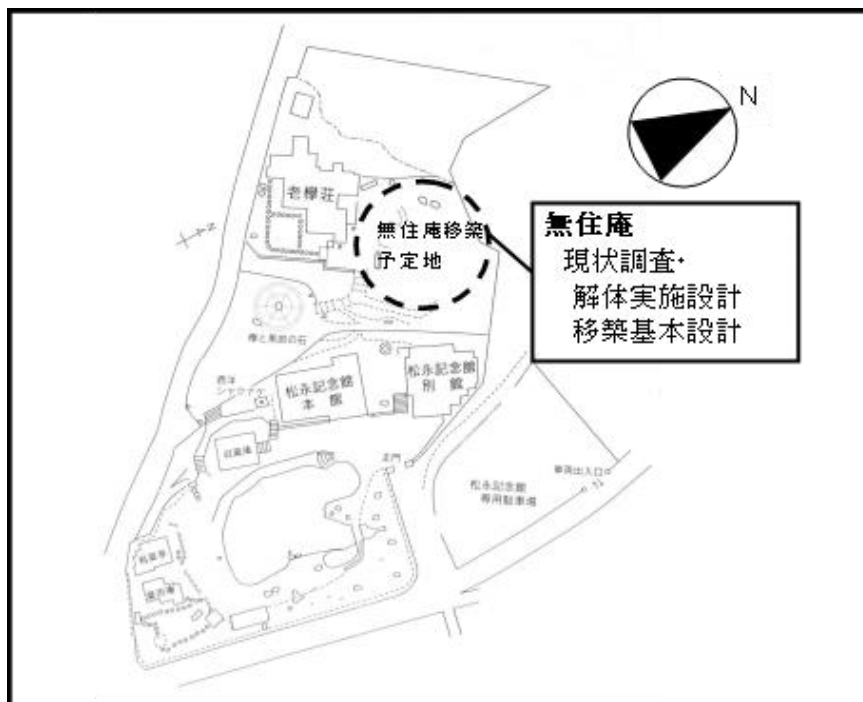
「小田原市歴史的風致維持向上計画」に基づく計画推進事業の一つとして、老櫓荘・葉雨庵（登録有形文化財）等の歴史的建造物や松永耳庵が作庭した庭園（日本の歴史公園100選）等からなる松永記念館の改修・整備等を進めており、平成29年度は耳庵ゆかりの茶室「無住庵」の松永記念館敷地内への移築に向けた基本設計等を実施する。

## 1 整備年次スケジュール

平成23年度	松永記念館整備基本プラン・改修基本設計作成
平成27年度	無住庵の無償譲渡及び移築に関する覚書締結
平成28年度	無住庵無償譲渡契約、所有権移転登記完了、歴史的風致形成建造物へ指定
平成29年度	無住庵調査・解体実施設計・移築基本設計
今後予定	
平成30年度	無住庵解体保管工事・移築実施設計 駐車場・庭園整備等実施設計
平成31年度	無住庵整備工事、庭園整備工事
平成32年度	庭園・駐車場整備工事（平成32年度終了予定）

## 2 補正予算内容

松永記念館整備活用事業費	5,150千円
無住庵移築基本設計等委託料	
(財源)	
社会資本整備総合交付金	2,078千円
一般財源	3,072千円



松永記念館改修整備等位置図